

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

小中学生の部



令和八年一月度 入賞句一覧

投句数 五百三十一句

特選

長町 誠司 選

顔面にボール直げき冬に入る

大垣市

陸田 峻生（小四）

寒くなると動作や反射神経が鈍くなり、どうしてもミスが多くなりがちです。ボールの直撃場所が「顔」だけに心配になりました。この句の「冬に入る」は、暦の上では二十四節気の「立冬」を指します。この季語は、今日から厳しい寒さのくる冬が始まるのだという緊張感や警戒感を感じさせます。そんな季語と、日常生活の出来事との取り合わせに成功しました。この特選で、少しは顔の痛みも和らいだら嬉しく思います。

なわとびにからまる妹年の暮

加茂郡川辺町

神農 はな（中三）

すべてが慌ただしく、気持ちだけが急いでしまう一年のおわり。そんな「年の暮」は、物を事を早く実行したくて心が落ちつかないものです。そんな心象も含む季語「年の暮」と、物なわとびに絡んでしまった妹との取り合わせの句です。「からまる」という表現が、年の暮の忙しさを想起させ、とてもレベルの高い俳句となりました、縄跳びにからまるというフレーズは、他の句にもありそうですが、「年の暮」との取り合わせは新鮮です。

いきしろしくちからおばけとんでいく

大垣市

水戸 咲那（小四）

「息白し」は冬の季語。冬は空気が冷たいので、吐く息が白く見えるため、この季語が生まれました。吐いた息がふわふわと空へ登る様子は、まるで白い衣装を身につけたお化けのように見えますね。「おばけ」のイメージといえば、ボタンやフアスナーの無い一枚の白い布をまとった姿で描かれることが多いですが、いつ頃から定着したのでしょうか。

秀逸

雪だるま私の心にとけこむの

加茂郡川辺町

羽根 結葉（中一）

雪よふれなんて言ったの誰だっけ

大垣市

難波田 瑞希（小四）

雪化粧朝日を浴びて星になる

加茂郡川辺町

井澤 陸斗（中三）

ともだちといっしょにつくるよゆきだるま

大垣市

しのはら さき（小四）

ゆきだるまつくったあともわらつてる

大垣市

もりい しおん（小四）

おおそうじいろいろなものでてくるな

大垣市

山田 愛花（小四）

はごいたで黒いメイクをいたします

大垣市

川さき りおな（小三）

ねこはねるこたつの中でぼくもねる

大垣市

し水 そう太（小三）

雪だるまいつもにつこりわらつてる

大垣市

田中 晴き（小三）

かまくらはみんなで入ると暖かい

大垣市

毛利 杏子（小三）

入選

素足での体育館の寒げいこ
空高しコツをつかんだこうさとび
冬の空白い息だけ歩いてる
雪の朝校門ひらく音ひとつ
姫路の地桜と共に残る城
もどる席机が先に冷えている
持久走真赤な耳が冬を知る
猫丸くこたつに眠る冬日和
クリスマス特に用事はありません
木枯らしや信号待ちの影ふたつ
ストーブのとう油のにおい冬感じ
冬だねと真つ白い息を見せ合って
雪だるまさまざまな顔おもしろい
ゆきだるまみんなで作るたからもの
さむいよるあしたにむけてけいとあむ
わたしだけなんでサンタがこないんだ
ゆきうさぎあつちとこつちぶんしんだ
おおみそか年こしジャンプしたくなる
タラバガニかぞくみんなで福井まで
冬の夜だれかが外で歌ってる

小中学生の部

大垣市	市川 椋一（小六）
大垣市	水谷 洸士郎（小二）
加茂郡川辺町	白石 智己（中二）
加茂郡川辺町	吉田 心優（中二）
加茂郡川辺町	酒向 佑奈（中二）
加茂郡川辺町	加藤 優奈（中二）
加茂郡川辺町	平岡 初月（中二）
加茂郡川辺町	村山 晴琉（中二）
加茂郡川辺町	古田 結大（中二）
加茂郡川辺町	福井 愛琉（中二）
加茂郡川辺町	北村 琉音（中三）
加茂郡川辺町	松岡 怜美（中三）
大垣市	大橋 怜奈（小四）
大垣市	森川 結月（小四）
大垣市	おだ かずま（小四）
大垣市	名和 詩織（小四）
大垣市	高井 音羽（小四）
大垣市	田なべ よしゆき（小三）
大垣市	名和 琴音（小四）
大垣市	いちかわ りょうが（小三）

選者吟

神楽獅子浮世の舞の齒を鳴らす

せいじ

